

## Method① 書評・文献批判

「書評」とは、単純に言えば、ある本の評価を表したものです。積極的、肯定的に評価するものもあれば、批判的に評価するものもあり、また、その両方を含んでいることもあります。書評の内容はたとえば以下のようなものです。

1) その本の内容のまとめ

その本のテーマ、主な結論、分析方法や書き方など

2) その本への肯定的／批判的評価

その本の評価できる点、不十分な点や今後の課題とその根拠(誤りの指摘、客観性やデータの不備に関する指摘など)

■単なる感想を書く読書感想文とは違って、より深く、文献を読む技術が身につく、批判的に読むことで論理的な思考力も育ちます。

このクラスでとりくむ書評では、以下のことを踏まえて書いてください。

- ※ 異文化間コミュニケーション・日本人論・日本文化論に関係すると思われる書籍を読む。  
(1冊すべて読破してもいいです。1章のみを取り扱ってもいいです。友人とグループで1冊の本を手分けして読んで取り組んでもいいです。)
- ※ 評価は、肯定的な評価だけでなく、必ず、批判的な意見を入れるようにしてください。そういうつもりで読んでみてください。
- ※ 発表のとき、聞いている人にわかりやすいように下のフォーマットをもとにして発表してください。

### スケジュール

- 4月中 文献の決定と報告(個人、グループごとに研究室に本を持参して指導を受けてください。)
- 5月中 個別に文献の読み込みと書評の作成(スランプ陥ったときは相談してください。)
- 6月中 発表(一人(1グループ)の持ち時間は10分です。)

書評・文献批判

氏名

所属学部学年

書籍名	「縮み志向の日本人」
筆者	李 御軍
発行年	2007年(原本 1982年)
	<p>本書は、多くの日本人論、日本文化論の中でも類似するものがないユニークな視点で、日本の文化、日本人を描き出している。その基本的テーマは、「縮みの志向」という、何でも小さなものにしてしまう日本人独特の性質である。</p> <p>本書では、日本のありとあらゆる現象をこの「縮み」で説明しようとしたもので、たとえば、言葉ひとつとっても日本人は「どうもありがとうございます」という言葉を、「どうも」だけで済ませたり、「パーソナルコンピューター」を「パソコン」とすぐに縮めてしまう。それは現代でもまったくかわることなく続いており、時代を超えた普遍的な日本人の性質を筆者は見事に見抜いている。扇子、歌舞伎、幕の内弁当、だるま、茶室、そのすべてに縮みの文化を見出している。さらに、今まで欧米諸国との比較ばかりが強調されてきた日本文化論の中で、最も近くて遠い国、韓国との比較を試みたからこそ、浮かび上がった日本人の姿が多く見られる。</p> <p>一部省略*****</p> <p>しかしながら、記述の中には、一部不十分なものが見られる。たとえば、「小型トランジスタラジオで成功した“SONY”の社名は小さいという意味の SONNY からとったもの」で、会社そのものの縮み志向を表していると述べているが、この社名には SONUS というラテン語で音、という意味の言葉がもとになり、簡単で世界中だれでも呼びやすい名に社名を変えることが目的だったと、SONY のホームページ上でも書かれており、やや強調しすぎた内容となっている。さらに、残念に思われるのは最終章で、縮み志向から拡がり志向に日本人が向かうことに警戒し、「鬼にならずに一寸法師に」と訴えているが、現代のようなボーダレスな国際社会において拡がり志向が進んでいくことは、自然な流れだと考えられる。若い世代は、自由に、留学や就職、結婚など国境を越えて、世界で活躍し、生活するようになった。そのことが鬼になることだとは一概にいえない。もし、日本の軍国化を憂うのならそれはやはり時代錯誤だとしかいいえないだろう。</p> <p>以下省略*****</p> <p>本書は、その分析の視点、分析の用例の豊富さ、普遍性という点において、他の日本人論とは一線を画した面白さがありお勧めである。日本人自身がこれほど納得する内容を韓国人が書いているということがそもそも驚きである。これと同じレベルの韓国人論を書ける日本人が果たしているだろうか。</p>

コメント [S1]: 本の全体のテーマや内容をまとめましょう。

コメント [S2]: 積極的評価のできる部分をまとめましょう。

コメント [S3]: 本文から引用したものは、「 」で書きましょう。

コメント [S4]: 批判的な評価をまとめましょう。その根拠や理由もしっかり書きましょう。

コメント [S5]: まとめ部分で、この本はいいのか悪いのか、評価をはっきり示しましょう。